

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1990100024
法人名	社会福祉法人 ひかりの里
事業所名	グループホームめだかの学校悠ゆう
所在地	〒 400-0016 山梨県甲府市武田2丁目8-17 電話番号 055-255-6011

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】平成20年3月11日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤	4人 非常勤 7人 常勤換算 3.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円
敷 金	■有 (100,000円) □無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有 (敷金・前家賃) □無		有りの場合 償却の有無 □有 ■無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
または1日当たり 約1,200 円			

(4) 利用者の概要 平成20年3月1日 現在

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	79 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひかりの里クリニック、保坂歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年3月18日

開設して1年目、甲府駅北口より数分の所で、民家を改装した1ユニットの施設である。幹線道路を隔てて2.3分の所に、児童養護施設と併設している系列グループホーム「シニア」があり、事業者は3施設が協働することにより、それぞれが影響し合い、より質の高い介護が出来る事を目的としている。子供達は頻りに尋ねて来たり、共に合唱の練習をして、地域の行事があるときに発表するなど、利用者との良い関係が作られていることは大きな特徴である。管理者及び職員の介護に対する質は高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価である。今回の評価に対して管理者及び職員の前向きに取り組んでいこうとする心構えがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者、職員共に自己評価に取り組むことにより、反省点を再認識し改善に取り組むことが出来ている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は道路を隔てた場所にあるグループホーム「めだかの学校シニア」との合同開催となっている。メンバーは両ホームの家族代表・社会協議会会長・地元民生委員・地域包括支援センター職員・近隣住民・管理者・介護支援専門員で構成されている。討議内容は、事業計画・事業報告・地域への啓発であり利用者家族からの意見や要望も活発にだされる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や運営推進会議に出される家族の意見や要望は、運営やサービスの向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が地域の行事に参加することはあるが、地域の人に訪問してもらう機会は少ない。近隣住民により施設を理解を深めてもらうため、4月2日に「めだかの学校感謝祭」を開催する。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームめだかの学校悠ゆう

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔で一日を楽しく。尊厳をもって、安心した生活を。」を理念として取り組んでおり、玄関に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に日々の生活の中で理念の実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	4月12日に「めだか祭り」を計画している。児童の太鼓演奏・健康相談・介護相談・骨密度測定のコナーを設けたり、手作りの焼きそば等用意して、地域の方・事業所の方に参加してもらうことにより、施設を理解し、交流を深めることに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価、自己評価である。今回自己評価に取り組むことにより、改めて気づきを発見することが出来、管理者・職員ともにその意義を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「めだかの学校シニア」が2、3分の所にあり、推進会議のメンバーも同じであるために、合同開催となっている。「悠ゆう」の家族代表から出された意見は取り入れサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に2回に1度、市の職員の出席があり、顔馴染みの関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、折々の写真や、生活振りを伝えている。預かり金については、金銭出納帳及び領収書にサインをもらっている。遠方の家族にはそれらのコピーを送っている。	○	送った領収書については、受け取りの確認書を返送してもらうなど一考を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望は面会時に管理者や職員に伝えてもらっている。また運営推進会議の折にも家族代表から出される意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「めだかの学校シニア」との職員間の異動はあるが、交流を頻繁に行っており、双方の利用者、職員が顔馴染みとなっているため混乱はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で実施される研修会、職員同士の勉強会など積極的に取り組んでいる。外部研修についてもその都度、情報の提供が有り、希望者には参加するための支援が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他施設の見学を行ったことはあるが、ネットワーク作りや勉強会を行うまでには至っていない。	○	インターネットを活用することにより同業者との交流を図り、情報交換の場とすることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にケアマネージャーと共に面会を行っている。しかし、入所当初は多少の混乱がみられる。	○	事前に家庭訪問や、他施設入所の場合でも面会に行くことにより、本人を理解し徐々に馴染みの関係を作っていくことを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「人生の先輩である利用者から学ばせていただいている」と言う思いを常にもち、共に支えあった生活がなされている。帰宅願望のある利用者には、職員が見守りながらの対応により改善されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はどんな場合でも利用者真剣に向き合うことを第一義と考えた介護が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、職員会議を行い、出される意見を介護計画作成に生かしている。家族には介護計画の内容は面会時に伝えている。また、コミュニケーションの取れる利用者には直接伝えている。運営推進会議に出された意見も介護計画に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとの見直しを行っているが、毎日行うミーティングの折、状況の変化が見られた場合はその都度話し合い、適切な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームだけの機能である。3月には隣に小規模多機能型居宅介護施設「めだかの学校悠ゆう」が開設される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康診断・予防接種・「ひかりの里クリニック」への受診は施設で対応している。従来のかかりつけ医への対応は家族となっている。「ひかりの里クリニック」は法人の経営であるため、迅速な対応・相談が出来る関係が作られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書には明示していない。管理者としては本人・家族の意向がある場合には受け入れることも視野にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である利用者の尊厳を傷つけないことを、職員が自覚した対応がなされている。最も配慮しているのは、トイレの支援である。個人記録についても配慮された取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先させることなく、利用者同士で出来ることを教えあい、トランプ・合唱・折り紙細工と、毎日の過ごし方は、本人達が決めて過している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、自由メニューの日をもうけてあり、10時のおやつの際に利用者が希望を出し合ってメニューを決定し、利用者・職員と共に買い物に行き、支度をして食事を楽しむ支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝のバイタルチェックによって入浴を決定している。時間帯はそれぞれの希望に合わせて無理強いすることなく、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	積極的に食事の支度や洗濯物の取り込みなど、本人の生活歴や力を活かした役割をもって過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「シニア」とシニア併設の児童養護施設の子供達と合同の合唱練習会に参加している。近くのスーパーやお寺も散歩コースである。お花見など季節の折々には、遠出を計画し戸外に出る支援をおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害は理解しており、鍵はかけていない。帰宅願望のある利用者はその都度見守りながら職員と一緒に歩いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「シニア」に応援を依頼して到着までの時間を見ながらの避難訓練を実施している。緊急時の連絡網・消防計画書が用意されている。	○	居室が2階であるため、近隣住人や地元消防団などの協力を得られるような働きかけを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士に指導を受けながら、週間ごとにメニューを決めており、栄養バランスや水分摂取量は時々の状況に応じた支援がおこなわれている。食事も柔かめにする、刻み食にするなど配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造しての施設であるため、居間は多少の狭さがあることは否めないが、かえって、利用者同士・職員とのコミュニケーションが図れ、良い関係が作られている。トイレ、風呂場は清潔に清掃されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつや使い慣れた家具等も置かれたり、姉妹からの手紙を大切に飾っておくなど、それぞれの好みに応じた設えになっている。室は広々としており、天窓も工夫されて明るい。		